

目 次

提 言 要 旨	P. 1
---------	------

はじめに	P. 2
------	------

第1章 住田町の現状	P. 2
------------	------

< 沿革 >	P. 2
< 人口の推移 >	P. 3
< 市町村合併 >	P. 3
< 担い手の確保 >	P. 3
< 環境整備 >	P. 4
< 中心地域・中心商店街の現状 >	P. 4
< 現地調査による中心地域・中心商店街の現状分析 >	P. 6

第2章 住田町の課題	P. 8
------------	------

< 私たち（14班の5人）が考える中心地域・中心商店街活性化策 >	P. 8
-----------------------------------	------

第3章 施策提言「住田町二世帯住宅大作戦」	P. 10
-----------------------	-------

おわりに	P. 14
------	-------

提言要旨

交流人口の誘導、定住人口の誘導、景観資源の有効活用という三つの課題をどのように解決すればよいのかを、「住田町二世帯住宅大作戦」と銘打って、中心地域をひとつの家に見たて、家族の一員の視点で住みやすい家、友達や遠方からのお客さんがくつろいでもらえる家とは何かを考え、その施策について提言する。

現状

- 中心地域の人口は、平成9年は1,431人であったが、平成21年度1,242人となっており、189人(△13.2%)の減少となっている。
- 中心商店街の店舗数は56店舗(空き店舗13店舗含む)であり、店主年齢が60歳以上の店舗は32店舗(74.4%)で、そのうち後継者がいない店舗が20店舗(62.5%)となっている。
- 消費者動向は町内が17.4%で、近隣3市が70.1%、その他12.5%となっており、他市町村の人が町内で購買している状況にない。
- 主な観光施設が中心地域以外に多く点在しており、また、バイパスの完成によって商店街が空洞化している。

課題

- ①訪れたいくなる、多くの人が集まり交流する空間の創出 ~ 交流人口の誘導 ~
- ②住みたいくなる、住みつけられる住環境の整備 ~ 定住人口の誘導 ~
- ③住みたいくなる、訪れたいくなる景観づくり ~ 景観資源の有効活用 ~

提言

- ①まちの顔『玄関』
玄関は2箇所と位置づけ、その場所に蔵のまちを意識したデザインによる、町産材を使用した住田町をPRできる表札(看板)を設置する。
- ②老夫婦と若夫婦の部屋をつなぐ『廊下』
古い地域と新しい地域のゆるやかな住み分けの実現のために、商店街と町営住宅等のある地区を結ぶ橋をスムーズな往来が可能となるように拡幅する。
- ③情報発信の場所『客間』
役場の改修にあわせて観光案内所(住田が一目でわかるスペースを含む)や物産館等を併設する。
- ④古き良き風情のある場所『老夫婦の部屋』
「蔵並」などを歩きながら楽しめるような環境の整備と、おふくろの味(地元食材を使ったグルメ)や林業などの歴史を紹介(体験)する施設を整備する。
- ⑤新たに定住し生活する場所『若夫婦の部屋』
若い世代の住環境への要望は多種多様であるが、単身、家族等のニーズに応える工夫をしながら住宅を整備する。
- ⑥家族みんなが憩ったり、来客に自慢する交流の場所『庭』
川の護岸を整備し、四季折々の自然やイベントなどを、来訪者や地域住民、どの世代でも集まって楽しめるように整備する。